

---

# ジャーナリズム史II 第2回

昭和前期 縮軍から拡軍へのムード  
ファシズムへの道

昭和10年代 新聞統制時代

## 2. 言論界 沈黙への道

---

- 昭7 五・一五事件：犬養毅首相暗殺 「話せば分かる」—ファシズムの時代に
  - 福岡日日 菊竹淳(すなお)・六鼓 「敢て国民の覚悟を促す」
- 共同宣言：満州国(32.2)の正当化 国際連盟を批判
- 昭8 信濃毎日 桐生悠々「関東防空大演習を嗤(わら)ふ」
- 当局による記事差し止め、発売禁止処分、言論人への右翼、左翼の暴力

### 3. 515事件:1932年5月5日 東京

---

- 軍縮—海軍の不満
  - 犬養は満州侵略に反対であり、日本は中国から手を引くべきだとの犬養毅首相を暗殺
- 「話せば分かる」「問答無用、撃て!」
- 政党内閣から軍人内閣へ: 斉藤実、加藤高明

## 福岡日日 菊竹淳(すなお)・六鼓

- 昭7 五・一五事件：  
犬養毅首相暗殺  
「話せば分かる」—  
ファシズムの時代に
  - 「敢て国民の覚悟を  
促す」
  - 福岡日日新聞(西日本  
新聞の前身)の編集局  
長・主筆、菊竹六鼓(ろっ  
こ)(1880-1937)



# 信濃毎日：桐生悠々

- 昭8 **信濃毎日 桐生悠々**「関東防空大演習を嗤(わら)ふ」  
1873～1941 反骨・反軍のジャーナリスト。
- 1899(明治32)年東京帝国大学法科卒業後、新聞記者となり、下野(しもつけ)新聞社、大阪毎日新聞社、大阪朝日新聞社などで働く
- 1910(明治43)年、名声を博した山路愛山(やまじあいざん=1864～1917。江戸の生まれの評論家。本名は弥吉。「国民新聞」の記者となり、雑誌「国民之友」などに史論・文学論を発表。「信濃毎日新聞」主筆を務めた)の後任主筆として『信濃(しなの)毎日新聞』(当時の発行部数2万部)に入社、日露戦争後の軍部批判で筆をふるう。



## 4. 言論統制の時代 国策と国論の統一

---

- 戦時体制 「時局」「生命線」「聖戦」
- 新聞資材の不足、欠乏
- 国論の統一、情報の一元化
  - 昭11 電通＋聯合通信社の合併→同盟
  - 情報委員会設置 昭15 情報局に
- 昭11 二・二六事件 「兵に告ぐ」
  - 朝日を襲撃 戒厳令下で報道禁止令
  - 民族の抵抗 ベルリンオリンピック

## 5. 226事件：1936年2月26日～29日東京

---

1. 陸軍皇道派による軍事クーデター
  - 1935/08 統制派永田鉄山軍務局長を斬殺
  - 青年将校ら1,438名＋民間人：北一輝の影響
2. 「昭和維新断行・尊皇討奸」
  - 武力を以て元老重臣を殺害すれば、天皇親政が実現し腐敗が収束する
  - 反乱部隊は陸軍省及び参謀本部、朝日新聞東京本社なども襲撃し、日本の政治の中枢である永田町、霞ヶ関、赤坂、三宅坂の一带を占領した。
3. 「叛乱軍」として武力鎮圧

# 下士官兵ニ告グ

- 一、今カラデモ遅クナイカラ原隊ヘ歸シ
- 二、抵抗スル者ハ全部逆賊デアルカラ射殺スル
- 三、才前達ノ父母兄弟ハ國賊トナルノテ皆泣イテオルゾ

二月二十九日

戒嚴司令部



## ベルリン・オリンピック:1936

---

- 08/25:『東亜日報』は孫基禎選手の胸の日の丸を意図的に抹消して掲載
- 朝鮮総督府(1910-45)の警務局によって同紙記者の逮捕・発刊停止処分(11か月)を受けた。
- 08/11「前畑 ガンバレ！」;河西省三アナ;前畑の写真
- レニ・リーフェンシュタール監督;ナチスの宣伝映画『オリンピック』(1936)、『意思の勝利』(1934)

- 東亞日報1936年8月25日付夕刊2面
- ベルリン五輪のマラソンで優勝し、月桂冠を書いて表彰台に上がった孫基禎(孙基禎)選手
- 銅メダリスト=南昇竜

